

植物原料の生産地 マダガスカルに 新校舎を寄贈

～アルビオンのサステナビリティ学校支援プロジェクトで子供たちの未来を支援～

>>>2016. 5. 17

株式会社アルビオン(東京・中央区、小林 章一 代表取締役社長)は、社会貢献活動および創立60周年記念事業の一環として、新たに配合する化粧品原料となる植物の生産地、マダガスカルの小学校と中学校に校舎を寄贈しました。

校舎寄贈の経緯 ～3社による学校支援プロジェクト～

アルビオンではかねてから独自成分の開発に力を入れており、固有植物が豊富に宿るマダガスカルに着目して植物の探索を行なっていくなかで、バイエル傘下のバイエルヘルスケア社、マダガスカルのソートラメクス社と出会いました。マダガスカルの貴重な植物を成分として使わせていただくだけでなく、発展途上国とされているマダガスカルの発展に微力ながら貢献できればという想いから、2010年にアルビオンを含めた3社で学校支援プロジェクトを立ち上げました。それ以降、リュックや文具を寄贈するなどの地道な支援活動を継続的に行なっていたことから、今回の新校舎寄贈に至りました。

学校支援プロジェクトの目的

マダガスカルは学校も少なく、子供たちの約半分が学校に行けないことから教育レベルの低さも大きな課題となっています。今回の取り組みで、マダガスカルの未来を担う子供たちが自分達の国の貴重な自然の価値を理解し、自分達で守っていけるようになることを願ってスタートした活動です。

現地で記念セレモニーを開催

2016年4月7日に現地にて記念セレモニーを開催しました。マダガスカルからは教育大臣や地区の関係者、学校の児童・先生をはじめ、アルビオンからは小林章一社長らが出



寄贈した小学校校舎



中学校の校舎の前で子供たちと



セレモニーで挨拶する小林章一社長

席し、「マダガスカル未来を作る子供たちが、一人でも多く学校に通える環境をつくることで、近い将来、植物学者や自然保護活動家など、マダガスカル植物や自然の未来を守ってくれる人たちがこの学校からたくさん生まれてくることを願っています」と挨拶し、先生や児童たちからダンスを披露されるなど歓迎を受けました。

アルビオンは今後もサステナビリティ、トレーサビリティ、フェアトレードの考えを軸に、継続的にマダガスカルへのサポート活動を行なっていく予定です。

マダガスカル植物原料を配合した商品は2016年秋に発売予定です。追ってご案内いたしますのでどうぞご期待ください。

【支援概要】

マダガスカル首都アンタナナリヴから車で約4時間ほどのアンパシポツシ(Ampasimpotsy)地区の小学校および中学校

小学校校舎1棟(3クラス分増設)/ 中学校校舎2棟(4クラス分増設) / 井戸/ソーラーパネル/ボールペン/世界地図など

その他、2010年および2013年からは毎年スクールキット(リュック・ノートなどの文具セット)の提供を継続中。

今後は図書室や先生の寄宿舍の建設など、状況に応じて継続支援を検討しています。



【マダガスカル 基本情報】

国名 マダガスカル共和国

人口 約2320万人(2014年推計)

首都 アンタナナリヴ

アフリカ大陸の東、インド洋に浮かぶ島国。日本の約1.6倍の面積を持つ。かつてはアフリカ大陸の一部であったが、1億数千万年前に孤立した島となったため、他からの影響を受けることなく、他には存在しない多くの固有生物が今もなお現存する神秘の島。約12000種ある植物のなかでも多くの固有種が存在している。

